

伊賀市社会事業協会

2010

2010年12月10日 第21号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL: 0595 - 21 - 5545

FAX: 0595 - 23 - 6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

原点に立ち戻ろう

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

会長 森下 達也

あの大戦から六十五年、日本だけは戦争はないと多くの人が信じ、ひとまず店頭には物がたつぷり並んでいます。福祉の場も「すべての人々」への「多様なサービス」と謳われるようになってきました。であるのに、街ゆく人々に暗い顔が少なからずあるのは一体どうしたことでしょう。自殺者は毎年三万人を超え、仕事につけない若者は減りません。斯く想うと、後期高齢者である私の頭は、また遠い時代に還ってしまうのです。

昭和二十年八月敗戦、日本は史上最大の試練を受けました。焼野原から漸く立ち上がった多くの人々が定職を得て「戦後は終了」と感じたのが昭和三十年頃、高度経済成長への助走から次のステップを踏もうとしたのが昭和四十年頃でしょうか。その約二十年の世の移ろいに私の若い日々は翻弄され、しかし先輩たち日本人の精神構造に瞠目させられていました。

社会福祉はその二十年の間に、福祉六法体制を完成してしました。昭和二十二年の児童福祉法から昭和三十九年の母子及び寡婦福祉法に至る六法です。その骨格の心柱は、憲法第二十五条、憲法第八十九条、そして社会福祉事業法第五条であったと私は思っています。心柱としての理念を今様に言くと、セーフティーネットからこぼれ落ちる国民を断じて出さないこと、公と民は常に互いの役割を尊重し合いながら国民のために協働しなければならぬこと、そして、公はその公的責任を他へ転嫁してはならないことでありました。嗚呼、今こそこの理念に立ち戻るべき世相なのではありませんか。

福祉理念は、往時の日本経済社会と微妙に連動していたとは思いますが、日本は大戦後西側自由経済の一員としてスタートしましたが、どちらかと言えばアメリカ的ではなく、格差の少ない抑制のきいた資本主義経済社会を目指していたからです。しかしこれが後年、「護送船団方式」に喩えられ主として市場

原理主義者たちの批判にさらされました。再連動するかのようには、福祉の価値観とマーケットの価値観が重なりはじめたのはご承知のとおりです。経済社会の出身者である私には、この流れの本質を充分理解出来るつもりです。しかし福祉の根源的な存在意義を見誤ってはいけません。直接契約方式への移行によって惹起されるインセンティブは、福祉にはなじまないということです。何はともあれ、コミュニティと家族の崩壊がこれ以上進まないように、政治を預る皆さんお考え下さい。

福祉に携わる私たち、福祉はまず弱い立場の人々から、生活に苦しんでいる人々からという原点に立ち戻らなくてはなりません。その上での普遍化です。

(三重県社会福祉協議会会長)



—石だたみに秋深む(伊賀市 上野公園) —
松田 昇 写真集「風土記」より

第二十五回子どもフェスティバル 「つくってみよう!あそんでみよう!」

当法人立保育園では、子どもたちの成長を保護者と共に喜び合い、併せて地域の方々に保育園をより理解してもらいたいとの思いで、十一月六日ゆめドームうえのにおいて「第二十五回子どもフェスティバル」を開催いたしました。

今回は「つくってみよう!あそんでみよう!」をテーマに、空容器や空き箱などの素材を利用して子どもと大人がいろいろと体験しながらふれ合い、楽しめるコーナーを設けました。また、日頃お世話になっている地域の方々と「伝承あそび」や、絵本ボランティア



バターゲートゴルフっておもしろいなあ



わたしだってできるよ、ソレッ

アによる「読み聞かせ」「子どもと保健」「子どもと食事」「赤ちゃんひろば」などのコーナーを設けました。子どもたちは夢中になって遊び込み、保護者は子育てのヒントや情報を得る場となり、好評を得ました。さらに劇団「バク」による人形劇『ねずみの嫁入り』の上演も会場内を盛り上げてくれました。晴天に恵まれ、約二千六百名のご来場者の方々には、心ゆくまで楽しんでいただけたのではないかと思います。保護者や地域の方々、職員が一体となって子どもの成長を育むフェスティバルが開催できたことを嬉しく思います。

ハープの音色に聴き入って

心身障害児療育施設かしのみ園

かしのみ園では、子どもの成長を願って、子どもと保護者とその家族が、互いに学び合うために「ふれあい会」を行なっています。今回は、ハープとパーカッションによるアンサンブルコンサートを企画しました。卒園児や園児のご家族も大勢参加されて、賑やかな音楽会になりました。

ハープを初めて見る子どもがほとんどで、さわやかな音色に感激し、静かに聴き入っていました。



初めてのハープに興味津々



ハープを演奏する田中ゆかさん(右)とパーカッションを演奏する伊藤ひろしさん(左)

ハープの弾き語りによる、映画「千と千尋の神隠し」の主題歌「いつも何度でも」や「コーヒールンバ」、そしてその演奏に寄り添うように刻まれるパーカッションのリズム、それぞれが互いに引き立て合うのがとても印象的でした。

最後にハープ奏者の田中ゆかさんが、我が子の誕生の喜びを作詞作曲したオリジナルソング「うたの中の天国」を歌ってくれました。我が子の成長を願う親の想いが一人ひとりの胸の奥深くに沁みわたりました。



芋をきずつけないように

中瀬地区老人クラブの皆さんとさつまいも掘りに行きました。「大きくなっているかな?」と期待に胸をふくらませて掘っていくと大きな芋が顔を出しました。「でっかいなあ」「僕の顔より大きいで」「赤ちゃん芋もかわいい」などと畑のあちらこちらから大歓声が上がりました。

草取りなどのお世話をして下さった地域の方々の子どもたちを慈しむ心に助けられ、さつま芋を箱一杯に収穫することができました。

収穫の喜びを通して、食べ物大切さや感謝する気持ちを育んでいきたいと思っています。

お年寄りといっしょに さつまいも掘り

中瀬地区老人クラブ
中瀬城東保育園

児童クラブ「オーロラ」が開所

保育園児が卒園して小学生になると、放課後の見守りが困難になってしまいます。放課後の子どもたちの居場所を求めるニーズはますます高まり、7月より伊賀市の委託を受けて上野西小学校区内3番目の放課後児童クラブ「オーロラ」を小田町自治会館の一室で始めました。

子どもたちは毎日「ただいま」と元気よく学校から帰って宿題を済ませ、読書をしたり友だちとゲーム遊びをしたりして、充実した時間を過ごしています。保護者からは「放課後も子どもの安全が得られるので、安心です」と喜ばれています。



当法人が運営する4か所目の児童クラブがスタート(ひかり保育園所轄)



大きなお芋ができるように草取りしようね

普通救命講習会開催 —子どもの命を 守るために—

当法人立保育園では、一四〇〇名余りの乳幼児を日々保育しています。この子どもたちを危険から守るために、職員の安全意識の向上を図り、周辺環境などを整え、当面する対策の充実強化に努めています。

その一環として、施設安全推進委員会では、伊賀市消防本部中消防署員の指導の下、普通救命講習会を開催しました。救急車が到着するまでに、その場に居合わせた職員が行なう救命活動の大切さを痛感し、心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)の操作方法を真に迫って実習しました。子どもの命を守るために常に冷静に行動し、状況に応じた適切な判断と対処ができる能力を身につけておくことの重要性を確認し合って、講習会を終えました。



大切な生命を守るために真剣です



感謝申し上げます。

おこなし 往古梨まつり

今年は新型インフル
エンザの影響により、
施設ごとに規模を縮小
して行ないましたが、
今年はお来賓、ご家族、
ボランティア、地域の
皆様など多くの方々に
ご来場いただき、盛大
に開催できましたことを心より

澄みきった秋空の下、十一月
三日（文化の日）、「第十回往古
梨まつり」を開催いたしました。
今年のアトラクションは、落語
家の桂文福さん、桂まめださん、
桂和歌ぼんさんで、落語に大道
芸、三名の掛け合いに会場中が
笑い声、拍手であふれました。
各コーナーでは、昼食を楽しま
れる方、的当てやスーパード
ルすくいなどを楽しまれる方、
皆様それぞれにゆつくりと過ご
されていきました。



不思議な世界に誘われて

第二梨ノ木園



伊賀マジック倶楽部の
西口義金様ご夫妻を
お招きし、楽しい漫談
を交えながらの手品を
見せていただきました。
軽快な音楽が流れる
中、帽子の中から次々
と花が出てきたり、切
ったロープが一瞬でつ
ながったり、絵に描い
たスプーンが曲がった
りと不思議な光景が繰
り広げられました。

満席になったフロアからは、マジックがひとつ披露される度に大きな拍手が送られていました。「どうなってるんやろ」と興味津々な表情をされている方や、家族やボランティアの方と楽しげに話されている姿が見られ、ご利用者からは「本当に楽しかった」「普段は見られないマジックを見られて良かった」などの声が聞かれました。

朝屋老人クラブ、大野木ゆうゆうクラブの皆様をお招きし、「絵手紙を書こう」と題し絵手紙制作を楽しんでいただきました。りんごなどの季節の題材を、ちぎり絵や絵の具など、思い思いの手法で描いていただきました。「筆を持つのが久しぶりで上手く書けるやろか」と心配している方もみえましたが、いざ書き始めてみると、慣れた手つきで筆を運ばれ、「私の描いたりんごおいしそうや」「雰囲気のあるいい作品ができた」などと会話が弾み、ひと言メッセージを添えて絵手紙が出来上がりました。

心のこもった絵手紙は、どなたに届くのでしょうか？



素敵な出来栄に思わず顔もほころび、「芸術の秋」にふさわしい午後のひとときになりました。

芸術の秋「絵手紙を書こう」 デイなしのき

皆で奏でよう竹のハーモニー

梨ノ木園

梨ノ木園の午後の催しは、ご利用者によるクラブ発表の後、“皆で奏でよう竹のハーモニー”をテーマに竹太鼓の演奏会を行ないました。職員による「お祭りマンボ」の演奏で始まり、職員とご利用者が息を合わせて「伊賀上野小唄」を合同演奏しました。



竹の音が共鳴した瞬間は迫力満点で、最後は全員で演奏し、会場が一体となりました。ご来場された方からは、「皆さんのチームワークには感動しました。」というご感想もいただき、とても嬉しく思いました。

往古梨まつりのメインテーマ『地域とともに、家族とともに支え愛』を表現した楽しいひとときを過ごすことができました。

「芸術の秋を楽しもう」という趣旨で株式会社 INAX 課長 中川徳男様のご協力を得てタイルアートに挑戦しました。

ご利用者には事前に下絵を考えていただき、ご家族やボランティアの皆様と一緒に楽しみながらタイルを貼り合わせ、色合い豊かなオリジナルの作品を作り上げることができました。

また、ご家族やボランティアの皆様も楽しめました。

ご利用者からは、作品が完成した時の笑顔や歓声が多く見聞きされ、家族とともに秋のひとときを、ゆったりとした気持ちで過ごすことができ良い催しとなりました。



タイルアートを楽しみました

梨丘園



大きなライオンに大興奮

一人ひとり様々な思い出ができ、帰りのバスの中では、「もう一度行きたい」という声が聞かれ、楽しい旅行になりました。

全員で記念撮影した後、おしゃれなレストランで食事をすると、いつもと違う雰囲気が一層気分が盛り上がりました。キャラクターと二緒に写真を撮ったり、怖がりながらもスリルのある乗り物に挑戦したり、迫力あるウォーターワールドのショーを観賞したりと存分に楽しみました。皆さん抱えきれないほどのお土産を購入し、大変満足されていたようです。

入場すると、ハロウィンのお化けかぼちゃや、仮装したキャラクターたちが出迎えてくれ、皆さんの期待は一気に高まりました。



「USJ」の入口で

楽しかった「USJ」
— 思い出運んだバス旅行 —
身体障害者支援施設梨丘園

いただきます

— 冬野菜で体をポカポカに —

冬の代表的な野菜といえば何を思い浮かべますか？大根やカブ・ごぼう・白菜・ネギなど、お鍋の材料に最適なもののばかりです。

冬野菜には根菜類が多く、体を温める効果があります。逆に夏野菜は、水分が多く体を冷やす効果があります。季節によって体が必要とする野菜があるのです。また、野菜に含まれるビタミンCやEは冷寒性に効果があるといわれています。大根・カブ・白菜にはビタミンCが多く含まれており、血液の主要な材料となる鉄分の吸収を促進することで、毛細血管の機能を保持するのです。ネギに含まれるアリシンと呼ばれる辛味成分にも、体を温める作用があります。

一日に野菜を300g～350g程度摂るよう推奨されています。生野菜では摂取することが難しくても、鍋にすると沢山摂ることができます。

冬は色々な鍋料理で、体も心も温まってみてはいかがでしょうか。



お楽しみ外出

— 秋の城下町を通って —

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

当園では、ご利用者が希望する場所に買い物や食事に出かける『お楽しみ外出』を実施しています。皆さん大変楽しみにされ「今回はどこへ行こう」「あそこの店で食べてみたいな」と、それぞれに行きたい場所を考えておられます。

今回は市内の和食レストランに行くことに決定しました。店へ向かう道中では「何を食おうかな」と嬉しそうに話され、お店でメニューを見て「これ、おいしそうだな」と好きな品を選び、いつもと違う食事を楽し



“大満足”

まれました。帰りの車の中で、街の風景を見て、「昔は、あの店によく行ったわ」と久しぶりに見る街並みを懐かしんでおられました。

「おいしかったわ」「また行こうな」と、早速次回の外出を楽しみにされていました。



人生まだまだこれからだー♪

今後ご利用者の皆様に、より充実した時間を過ごしていただけるよう、さまざまな出合いを計画させていただきます。

去る九月二十九日には、「比自岐音頭愛好会」の皆様十二名にご来園いただきました。「夫婦ちゃんりん」「雪の十日町」など、ご利用者の皆様がよくご存知の曲に合わせて、凛々しい踊りと、しなやかな踊りをたくさん見せていただきました。また代表の方が歌も披露して下さい、最後に「これから音頭」を一緒に踊り、元気なパワーと癒しをいただきました。

当センターでは、保育園児、小中高生、ボランティアの方々など、多方面からお客様をお招きし、とても貴重な出合いをさせていただいています。

“一期一会”
～ 出合いを大切に ～
デイサービスセンターなしのき

“ヘルパーと外出を重ねて”

かしの木ひろば

船見瑠衣さんと初めて出会ったのは、平成16年11月でした。笑顔がとてもすてきな女性です。

お母さんから「瑠衣に家族以外の人と、自宅や外出先で過ごさせたい」とのご要望があり、支援がスタートしました。「買い物をしたい」「バスや電車に一人で乗りたい」「目的地への道を覚えたい」また「料理やお菓子作りをしたい」という思いにお応えしようと、楽しみながら船見さんが出来る事を増やしていきました。ご家族との連絡、相談を密にして船見さんが心地よく料理や外出ができるように心がけました。

支援の中では、いつもうまくいく事ばかりではなく、降りる予定の駅を乗り越してしまったり、待ち合わせ場所までの道に迷った船見さんをGPSで捜したこともありました。

支援を始めて6年、自宅からバス停まで一人で歩き、ヘルパーとの待ち合わせ場所まで市内循環バス“しらさぎ号”で来ることができるようになりました。その後も買い物や食事、プール、スケート、映画など外出の幅がどんどん広がり、高等部卒業後は、しらさぎ号や路線バスを乗り継いで作業所に通っています。

また休日にはヘルパーと料理を楽しんでおり、少しずつ



「今夜はシチューよ」船見瑠衣さんを見守るヘルパー

つレパートリーが増えてきました。

これからも、いろいろな経験をしたいという船見さんの望みが叶い、生活することの楽しみが増えるよう支援してまいります。

「さをり織を通じて」

かしの木ひろば



来年の干支のうさぎのキーホルダー

かしの木ひろばでは、開設した平成6年以来、ご利用者の皆様が“さをり織”を楽しんでいます。さをり織は作り手のセンスで縦糸と横糸を選び、織りの配色はその時々での色糸の加え方で表情が様々に変化して、世界でただひとつ、その人ならではの織物ができ上がっていきます。織り上がった大きな反物は、ベストやブラウスに、小さな物はキーホルダー等に生まれ変わります。最近では、“あったらいいな”の思いでアイデアをデザイン化しています。今は、来年の干支に合わせ、愛らしいうさぎのキーホルダーを作製中です。

さをり織の縫いを一手に引き受けて下さっているのが、ボランティアの矢倉昌さんです。私たちのつたないアイデアに改良を加え、素晴らしい物に仕上げて下さいます。

矢倉さんにどのような思いでボランティアをされているのかお尋ねしたところ「熱中できることがある毎日とはとても楽しいです。」とおっしゃられ、90歳を過ぎておられますが、お元気にかしの木ひろばを支えてくださっています。

新作のさをり織にはカードケースやブックカバーのような文具もあります。生活にさをり織を取り入れ、より身近に感じていただければうれしく思います。



16年間さをり織りの仕上げ加工をして下さっているボランティアの矢倉 昌さん



点字器を初めて手にとる小学生

去る、九月二十八日、二十九日の二日間、伊賀市立友生小学校にて、点字図書館の仕事と役割についてのお話や点字体験学習を行いました。はじめに、児童の皆さんに、目の不自由な方の読書環境や図書の利用方法などをお話させていただきました。その後、点字を書くための基礎と点字器の使い方を説明し、実際に点字を書いていただきました。児童の皆さんは「上手く書けない、難しい…」と言いつつも一所懸命に書き、自分で書いた点字が正確に書けているか熱心に確かめていました。

これからも、視覚障がい者への理解を深めていただけるよう、このような機会を大切にしていきたいと思えます。

小学校で点字体験学習 ―視覚障がい者への理解を―

上野点字図書館

☆この会報に掲載した個人情報、ご本人もしくはご家族の承諾をいただいております。

施設案内

「お年寄りとの交流を通して育つ長田っ子」

長田保育園

長田保育園は、伊賀市上野地区の西北に位置し、裏山には「ふるさと芭蕉の森公園」があり、四季折々の自然を肌で感じることができます。

昭和三十三年、長田地区福祉会が保育事業を開始し、三十五年に認可保育所としてスタートしました。三十六年には当法人が経営を引き継ぎ現在に至っています。

園舎は、日本小型自動車振興会・三重県・上野市(現・伊賀市)の補助により、昭和六十二年に改築竣工しました。改築後二十三年が経った今、



屋根改修及び外壁塗装工事が完了し美しくなった園舎



落ち葉で遊ぶ子どもたち

(財)車両競技公益資金記念財団の助成により、老朽化した園舎の屋根改修工事及び外壁塗装工事等を施工することができました。一段と明るい園舎にリニューアルされ、保育室の床も美しく甦りました。

近くには盲養護老人ホーム梨ノ木園、特別養護老人ホーム第二梨ノ木園があり、子どもたちは、両園で生活されているお年寄りとの交流を頻繁に行なっています。お年寄りにかわいがられ、地域の皆様方に大切に育てられている「長田っ子」は、やさしく思いやりをもった子どもたちばかりです。

笑顔輝いて ～山あり谷あり、これが私の歩む道～

新しい企画として、当法人の職員にスポットを当てて紹介します。記念すべき第1回目は、ひかり保育園の「中島露子園長」です。

Q. 保育士になろうと思ったきっかけは何ですか？

A. 図書館司書が教師になろうと思って、短大で教養科を専攻していました。しかし当時、図書館司書の求人は非常に少なかったことと、担任の先生から、『これからは子どもがどんどん増え、保育園の役割がますます重要になってくるので、保育士を目指してはどうですか？』というアドバイスをいただいたのがきっかけです。

Q. 保育士として働いてきた中で嬉しかったことや辛かったことなどを聞かせてください。

A. 働き始めて1週間くらいでノイローゼ気味になりました。保育園があまりにも賑やかなのと、絶えず話しかけていなければならないことがストレスになったと思います。でも1か月後に故郷の母親から電話がかかってきて、すごくしゃべれるようになった自分の成長を気付いてもらえたことがとても嬉しかったです。また、保護者となった教え子と再会した時は、とても感慨深いです。

Q. 中島園長が描く保育士像とは？

A. 大変難しい質問ですね。39年間保育士一筋で勤めてまいりましたが、未だに答えは出ていません。と言うか「迷える自分で良い、常に悩んでみながら色々聞きながらやっていく」というのが私のスタンスです。時代は刻々と変化し、保育の方法や考え方も刻々と変化してまいります。私は常に「その子にとって一番は何か」と言う事を考え続けてきましたし、とにかく体当たりで仕事に取り組んできました。

Q. 39年もの間保育士として仕事を続けてこられた秘訣は何ですか？

A. 改めて考えると、よくここまで勤められたなと我ながら感じますが、第一の秘訣としては、やはり健康維持を図る事です。私は、中学高校の6年間はバスケットボールを続けました。身長は145cmでしたが、レギュラーとして県大会へも行きましたので、体力には自信

があります。

第二には家族の大きな協力があったことです。また、子どもを職場の近くの保育園へ預けられたことと、母の介護について当法人が多くの面でサポートしてくれていることも大きな理由です。

第三は常に“続ける”という信念を持って仕事に臨んできた事だと思っています。

Q. 最後に中島園長が後輩たちに思う事をお聞かせください。

A. 私は、18歳で故郷の岡山県を出て、奈良県の民間企業で仕事をしながら、3年間昼間の定時制の短大に通いました。勉強と仕事の両立はとても大変でしたが、辛いとは思いませんでした。それは将来の夢を叶えようという気持ちがあったからです。

後輩たちに願うことは、常に目標を持って歩むことと、福祉だけに捉われず、様々なことに興味を持って欲しいということです。私は図書館司書の勉強をしていましたが、図書館の本の分類には哲学・歴史・社会科学・自然科学・技術・工学・産業など様々な分野があり、その中で福祉に係る本はほんの一部です。つまり福祉的な考えのみの狭い物差しではなく、他の世界のことに関心を抱いていただき、いろいろ見方、物の考え方が出来る社会人となれるよう、日々勉強して欲しいと思います。そして常に“感謝の気持ち”を忘れないでいてほしいと思います。



ひかり保育園 中島露子園長